

歯学部・薬学部 推薦二期実施



平成21年度入学試験日程

■歯学部

区分	募集人数	出願期間	試験日	合格者発表
推薦二期	15名	平成20年 11/25(火)～12/12(金)	12/13(土)	12/14(日)
一期試験	50名	平成21年 1/7(水)～2/3(火)	2/5(木)	2/6(金)
二期試験	11名	平成21年 2/16(月)～3/4(水)	3/6(金)	3/7(土)

■薬学部

区分	募集人数	出願期間	試験日	合格者発表
推薦二期	10名	平成20年 11/25(火)～12/11(木)	12/13(土)	12/15(月)
一期試験	70名	平成21年 1/7(水)～2/5(木)	2/8(日)	2/10(火)
二期試験	10名	平成21年 2/12(木)～2/27(金)	3/3(火)	3/5(木)

奥羽大学報



目次

- 第16回奥羽祭／外部評価委員の現地調査 2
- 奥羽大学携帯Webサイト／(薬)教員研修講演会 3
- 科学研究費補助金／まなびピアふくしま2008 4
- 保護者懇談会 5
- 学友会活動記録／第40回全日本歯科学生総合体育大会 6
- 第51回全国薬学生卓球大会／
慶熙大学との歯科大学生親善体育大会 7
- 平成20年度大学院第2・第3学年研究計画および経過発表会／
オープンキャンパス／薬用植物園見学会 8
- 中学生・高校生のための科学実験講座／第46回奥羽大学歯学会 9
- 国際学会／附属病院 10
- 図書館 12
- 余滴／公開講座特集 13
- 同窓会／同窓生のひろば 16
- 学校法人晴川学舎 平成19年度決算報告 17
- 人事／慶弔 19
- 郡山自転車ロマン紀行(第8回) 20
- 歯学部・薬学部推薦入学二期試験日程 22

120

第16回奥羽祭

今年も10月11日(土)、12日(日)に第16回奥羽祭を無事開催することができました。自分にとって今年は、初めて実行委員長を任されたこともあり、不安に思うことも多々ありましたが、日程が近付くにつれて学友会員全員の気持ちが一丸となり、不安よりも待ち遠しくなりました。

当日は、天候にも恵まれ、みちのくボンガーズさんによるコントや童子-Tさんによるライブも好評に終えることができました。さらに、毎年参加いただいている東北歯科専門学校をはじめ、学生による「BLS」と呼ばれる一次救命処置法の紹介といった初めての試みも行われました。多くの学生の参加もあって学生らしい“ハツラツ”とした活気とたくさんの方々の笑顔にふれることができ、私達、学友会員としては運営に携われたことを嬉しく思い、この経験を来年に活かしたいと考えています。

(実行委員長 佐々木 緑 薬3年)



外部評価委員の現地調査

本学の第三者による外部評価が以下のように実施された。(外部評価委員の都合により2回に分けて実施)

1. 実施日時

平成20年10月4日(土)10:00~15:00
同 10月6日(月)10:00~15:00

2. 会場

歯学部附属病院棟5階第4会議室

3. 外部評価委員

田上 順次 東京医科歯科大学
歯学部長
住友 雅人 日本歯科大学生命歯学部
生命歯学部長
安井 利一 明海大学 学長
河合 賢一 星薬科大学 教授

4. 学内出席者

学長・歯学部長・薬学部長・大学院研究科長・附属病院長・図書館長・歯学部自己点検自己評価委員長・大学院自己点検自己評価委員長・大学院研究科委員・歯学部学生部長・歯学部カリキュラム委員長・薬学部学生部長・薬学部学生部委員・事務局長・歯学部学事部長・薬学部学事部長・歯学部教務課長

5. 配付資料

- ①2008(平成20)年度奥羽大学自己点検・自己評価報告書
- ②平成20年度歯学部授業概要(シラバス)
- ③平成20年度薬学部授業概要(シラバス)
- ④平成20年度大学院歯学研究科授業概要(シラバス)
- ⑤奥羽大学教育・研究業績集(歯学部・薬学部)(2003~2008)
- ⑥平成18・19年度授業の自己評価報告書
- ⑦大学院歯学研究科教育・研究業績集(2003~2007)
- ⑧大学院歯学研究への学位の申請・授与に係わる申し合わせ事項

まず、本学学内委員から事前配付資料を基に説明を行い、各々の項目について、外部評価委員からの質疑に対し学内委員が応答する形式で進化した。併せて、学内の現地視察も行われた。

(薬)教員研修講演会

8月27日(木)に薬学部FD活動の一環として、第1回薬学部教員研修講演会が開催された。講師には東北大学大学院教育学研究科小泉祥一教授をお招きし、「学習意欲を高める授業の工夫」という演題で講演が行われた。

小泉教授は、まず小人数によるゼミ形式での教育方法と成績評価について、次いで授業点検における学生側の反応としての授業評価アンケートの意義および結果について解説された。

主題である、学生の学習意欲をいかに高めるかについては、学習意欲向上のためには、①適切な課題と方法の選択、②授業に対する興味、知的好奇心を呼び覚ます、目的意識の明確化、③授業に対する受容、共感が必要であるとし、授業の工夫のためには、計画(Plan)、実行過程(Do)、評価(See)が重要であり、それぞれについて具体的に説明された。また、東北大学における教員養成カリキュラムへの提言内容についても言及された。

会場には薬学部教員のみならず、天野歯学部長をはじめ歯学部教員の参加もあり、今後のFDの在り方について数々の示唆に富む講演会であった。

(小池 勇一)



なお、外部評価委員による主な講評を以下に記す。

【講評】

- ・共用試験実施評価機構、大学基準協会への加盟が認可されたことは、改善の努力の結果である。
- ・大学全体として積極的に外部評価を受け入れ、自己評価においても自己点検を踏まえた問題点及び課題の分析と改善事項が十分に把握され、取り組まれていることは高く評価できる。
- ・薬学部は現在、完成途上であるが、自己点検自己評価を行い多くの点で着実に完成に向けて努力されていることは良好と評価できる。

(丸井 隆之)

奥羽大学携帯Webサイト

奥羽大学携帯Webサイトができ上がり、11月4日(火)より配信がスタートした。

入試やイベント情報、学部紹介など内容も盛り沢山となっている。是非ご覧いただきたい。



<http://www.ohu-u.ac.jp>

科学研究費補助金

平成20年度若手研究(スタートアップ)

平成20年度科学研究費補助金 若手研究(スタートアップ)の交付が内定し、薬学部の高橋成周助手が採択された。

若手研究(スタートアップ)とは、応募資格に年齢制限を設けず、研究者の職に就いたばかりの者が早い段階から自立して研究に専念できるよう導入された公募種目であり、平成19年4月1日以降に研究者として初めて採用された者が応募できる。

また、採択される研究計画は「将来の発展が期待できる優れた着想を持つ」と認められるものであり、応募総額は年間150万円以下、研究期間は2年間である。

今年度は本学から歯学部助手3名(歯科補綴学講座3名)、薬学部助手1名、合計4件の研究課題の申請を行った。

交付内定結果は下記の通りである。来年度も若手研究者の活躍を期待したい。

(設楽 民雄)

(単位:円)

研究種目	若手研究(スタートアップ)	
区分	新規	
研究代表者	所属:職	薬学部:助手
	氏名	高橋成周
平成20年度交付予定額(直接経費)	1,340,000	
平成21年度交付予定額(直接経費)	1,200,000	
研究課題名	生物燃料電池を利用した電気応答薄膜のインスリン放出システムの開発	

平成21年度の応募に係る学内説明会

9月24日(木)、26日(金)の両日にわたり、研究者を対象とした「平成21年度科学研究費補助金の応募に係る学内説明会」が開催され、計109名が参加した。

説明会では、応募書類作成に当たっての注意点と、科研費の不正使用防止について説明を行った。

応募書類作成については、前年度まで紙媒体で数十部の研究調書を日本学術振興会へ送付していたが、今回の応募から申請書類は全てインターネットを利用した電子媒体での提出となる。

また、不正使用防止については、科研費の交付を受けてからも監査の実施が義務付けられていること、さらに研究者が購入する物品等は、必ず検収事務員が納品チェックをする体制がとられ、業者等とのやりとりについても調査が入ることを説明した。

近年報道されている不正使用の事例は、一部の心無い研究者によるものが主だが、研究者の意図せぬ不正使用も問題視されている。科研費は国民の貴重な税金を原資としていることを、十分理解いただくように説明した。

なお、現在科研費を受けている研究者は適切に使用しており、今後も科研費使用について理解と協力を求め、適切な管理に努めていきたい。

(渡部 梓)

まなびピアふくしま2008

10月11日(土)から15日(水)まで、第20回全国生涯学習フェスティバル「まなびピアふくしま2008」が開催された。本学では薬学部と歯学部が合同で、主会場となった郡山市の「ビッグパレットふくしま」において、「薬と歯から健康を科学する」というテーマで展示を実施した。

薬学部では、身近な微生物の顕微鏡観察や生薬の匂いを実際に体験できる展示を行った。また、歯学部では、清涼飲料水の歯への害作用を知るための実験や、歯垢中の細菌を生きたまま観察するコーナーを設け、来場者に実験や観察を行ってもらった。特に、清涼飲料水を用いた実験ではスポーツドリンクが歯を溶かす酸性飲料であることに驚いた様子だった。

た。

これと併行して、本学の姉妹校である東北歯科専門学校も本学附属病院を会場に、「まなびピアふくしま2008」の参加事業として歯磨きのポイントや口の中のことを詳しく解説する展示・実演を行った。

会期中、両会場を訪れた多くの方々には、薬と歯から見た健康科学の一端に触れることで、改めて健康の大切さを学ぶことができたようである。

(廣瀬 公治)



薬学部

10月11日(土)、薬学部1年生から3年生の保護者を対象とした懇談会を、第3講義棟で開催した。

保護者約130名が出席し、永井学部長のあいさつの後、岩間学生部長が6年制のカリキュラムの概要、6年制の薬剤師国家試験、薬学共用試験(CBT、OSCE)、病院・薬局実務実習、現4年生の就職状況等について、現状及び大学としての取り組みについて説明した。

また、11月1日(土)に、薬学部4年生の保護者を対象とした懇談会を第3講義棟で開催した。

保護者約70名が出席し、永井学部長のあいさつの後、岩間学生部長と押尾4学年主任が、残り4ヶ月あまりとなった国家試験までの大学側の支援体制、総合薬学演習試験や模擬試験結果を踏まえ本学学生の現状について説明いたしました。

全体会終了後に特別実習(卒業研究)担当教員による個別懇談も行った。

(星 幸宏)

保護者懇談会

歯学部

10月11日(土)、歯学部の保護者を対象とした個別懇談会を本学中央棟で開催した。昨年度を上回る256名の保護者が参加し、クラス担任が逐次個別に面談して、成績、学習の進捗状況や生活状況を報告した。また、保護者からは、子弟に関する心配事などのお話をいただいた。

(渡辺 克己)



学友会活動記録

○アーチェリー部

シブヤカップ

9月6日(土)・9月7日(日)

あづま総合運動公園

佐藤まりの(歯1年) 成年女子30・30m 1位

今井 彩乃(歯1年) 成年女子30・30m 2位

900ラウンドアーチェリー大会

10月19日(日)

貝山多目的広場

池田 敏和(歯3年) 成年男子RC部門 3位



シブヤカップ

○硬式野球部

南東北大学野球リーグ 秋季リーグ

9月27日(土)

小名浜球場

奥羽大学 7対5 会津大学

第40回全日本歯科学生総合体育大会

結果

○アーチェリー部[ヤマハリゾートつま恋]

長谷川 祐 (歯1年) 新人戦男子 1位

池田 敏和 (歯3年) シングル 6位

男子団体 2位

○柔道部[岩手県営武道館]

勝田 拓磨 (歯2年) 無差別級 1位

佐藤 暢彦 (歯1年) 無差別級 3位

○陸上部[青葉の森スポーツプラザ陸上競技場]

河本 隆大 (歯3年) 3000mSC 2位

1500m 4位

5000m 5位

清水 峰太 (歯4年) 1500m 5位

5000m 7位

薄 壮一郎 (歯3年) 800m 8位

○バレーボール部[盛岡市アイスアリーナ]

男子 ベスト8

空手道部門主管

8月3日(日)本学体育館において、全国から150名の猛者が集まり標記大会が開催された。

前日より大会会場へ乗り込み、試合場の感触を確かめつつ練習を行い当日に備える大学が多く、本大会にかける意気込みが感じられた。

当日は各会場にて数々の熱戦が繰り広げられ、多くのドラマが生まれた。

総合優勝は九州歯科大学、準優勝は愛知学院大学、3位は大阪歯科大学であった。本学は残念ながら個人戦のベスト8が最高であったが、大会運営にはクラブの垣根を越え多くの学生がかかわり、何ものにも代えがたい貴重な経験を積んだ一日であった。

(谷代 尚人)



フットサル競技事前大会主管

8月11日(月)に福島県須賀川市の「ブルースタジアム」で標記大会が本学歯学部を主管校として開催された。今回は事前大会ということもあって、参加は奥羽大学、東京歯科大学、

鶴見大学の3校のみであった。しかし、互いの健闘を称えあいながらの好プレーが随所に見られる素晴らしいゲームが展開された。

歯科学生同士の相互交流と友情を育むことができたのは大きな収穫であり、来年度のフットサル競技の本格実施への基礎固めを充分に行うことができた。優勝は鶴見大学で、奥羽大学は準優勝であった。

(清浦 有祐)



第51回全国薬学生卓球大会

8月20日(水)・21日(木)の両日、郡山市西部体育館にて本学卓球部が主管となり全国薬学生卓球大会が開催された。今年で51回目を迎えるこの大会は、長い伝統とともに全国の薬学部の学生が集まるということもあり、開催主管の話があった際には部員ともども躊躇・心配もあった。しかし、各方面からのバックアップや部員達の頑張りにより無事に終えることができた。今年の北京オリンピックでも卓球種目が話題となり盛り上がったが、今大会でも22校が参加し、例年にも増して熱戦が行われたように感じられた。試合では男子はシングルス、ダブルスともに今野治樹君、守屋孝倫君がベスト32に、また女子では高橋奈美さんが第3位という見事な成績を収めた。

卓球部は歯学部・薬学部学生がともに活動をするようになって4年目となるが、参加する試合は歯学系、薬学系別々のものの他に毎年春には東日本医歯薬学生卓球大会という大規模な試合もあり、学部の区別なく日々切磋

琢磨しながら練習に励んでいる。

(中川 敏浩)



慶熙大学との歯科大学学生親善体育大会

第13回奥羽-慶熙親善体育大会は、8月12日(火)から14日(木)に韓国慶熙大学校で開催された。今年の種目はバレーボールで、本学からは団長の齋藤高弘教授、学友会会長、学生8名と私(宇佐美晶信)の合計11名が参加した。

仁川空港で盛大な出迎えを受け、車内では早くも学生同士の交流が始まっていた。歓迎会は慶熙歯医学館新興PLAZAにて行われ、互いの親睦を深めた後、学生はホームステイ先に寄宿した。

翌日は9時30分から試合が開始され、本学が2-0、2-0と連勝し、午後からは構内見学などを行った。今回は日程の関係で慌しくなりましたが、両校の学生ならびに教員の交流を深めることができた。

(宇佐美 晶信)



平成20年度大学院第2・第3学年 研究計画および経過発表会

平成20年度の大学院第2・第3学年研究計画および経過発表会が、8月21日(木)午後1時から附属病院棟5階の臨床講義室で開催された。当日は2年生6名が研究計画の発表を、また3年生3名が研究経過の発表を行い、会場には大学院教員だけでなく各講座・分野の教員も多数参加した。大学院専任教員の司会進行のもと、それぞれの発表に対して活発な質疑応答や研究に対する助言があり、指導教員からも説明がなされた。熱心な討議を通じて今後の研究遂行に参考となる貴重な意見が出され、有意義な発表会となった。

(鈴木 康生)



歯・実習体験



薬・実習体験

薬用植物園見学会

8月18日(月)、薬学部附属薬用植物園見学会を、約30名の植物に興味のある一般市民、高校生が参加し、約2時間にわたって実施した。まずカフェテリア・メモリーで、薬用植物園の概要を説明した後、薬用植物、生薬の意味を解説し、現在使用されている伝統薬、家庭薬、さらに漢方薬に配合されていることなどを説明した後、植物配置図を配付し、残暑の中植物園を案内した。

薬用植物園内では、薬用植物を見ながら、漢方薬、伝統薬に使われていることなどを説明し、オトギリソウ、ムベ、ワレモコウなどの植物の名前の由来、雌雄異株である植物の見分け方、欧州では医薬品であるイチョウや地元に関連するニンジンなどについて、効能を含め説明した。参加者からは、外国で購入した漢方薬は大丈夫か？庭に咲いている花は、大丈夫か？など多くの質問があった。

オープンキャンパス

今年度第3回目のオープンキャンパスを8月24日(日)に、第4回目を9月6日(土)に開催した。学部紹介や進学相談のほか、キャンパス内の見学、実習の体験によって、奥羽大学がどんなところか、実感いただけたのではないだろうか。

なお、オープンキャンパスは、今後、12月6日(土)と1月10日(土)にも開催する予定である。

(三浦 孝英)

次に、標本室にて、古代において植物が簡単な加工後に運搬可能な生薬ができ、漢方薬の発展に繋がったことを説明するとともに生薬を直に触り匂いや一部味も体験した。また学生実習室では、市販のセンブリ茶、ゲンノショウコ茶、明日葉茶、杜仲茶、甜茶などを試飲し、同時にそれぞれの植物の写真を見せながら、効能などを説明した。

見学会の目的である薬用植物観察、生薬体験は、無事終了したが、アンケートでは「春、秋などもっと多く実施してほしい」といった希望が多く出されたことは嬉しい限りである。

(藤井 祐一)



中学生・高校生のための科学実験講座

8月21日(木)、薬学部では初めての試みとして、4テーマを設け「科学実験講座」を開催した。この講座の目的の一つは、現在話題となっている「理科離れ」対策に貢献することである。講座の開催にあたり、県内高校、市内中学校に案内するとともに、市内行政機関等にチラシを置き、さらには新聞、情報誌にも紹介された。

当日は昼を挟んで約5時間、参加した中学生・高校生に加え保護者も混ざり、大学の実習室・研究室を使って科学を十分に体験してもらった。参加者は高速液体クロマトグラフィーを使った生薬成分の分析や微生物の顕微鏡観察、あるいは化学反応での発光など、普段経験することのできない科学の不思議な世界を体験できたようで、アンケートでも極めて評価が

高かった。

参加者がやや少なかったことは残念だが、今回の試みを踏まえ、開催時期・内容や周知方法などを再検討し、次年度以降も継続していきたい。

(岩間 正典)



第46回奥羽大学歯学会

11月8日(土)、奥羽大学歯学会が第2講義棟で開催された。天野歯学部長の開会の辞で始まり、歯科医学に関する基礎研究から臨床研究まで含めた幅広い内容の発表が行われた。今回は大阪大学名誉教授の和田 健博士による「先天異常から学ぶ『顔と口とことば』」と題する特別講演も行われた。講演内容は和田名誉教授の長年にわたる研究成果を示されたもので、多くの会員が熱心に聴講した。鈴木大学院研究科長の閉会の辞で終了したが、当日は理事会も併せて開催され、学会活動のさらなる活性化のための真剣な討議が交わされた。

(清浦 有祐)



国際学会

【歯学部】国際学会参加報告

開催時期	国際学会	開催地	発表演題	本学参加発表者
10/9(木)~11(土)	日韓合同ダニ学会議	韓国・慶州市	ミズゴケ湿原に生息するササラダニ数種の繁殖率	栗城 源一
11/1(土)~ 3(月)	アジア歯科麻酔学会	中国・上海市	抑制下歯科治療が呼吸循環へ及ぼす影響	山崎 信也
			外科的操作の違いにおける局所麻酔効果の影響	伊藤 寛

【薬学部】国際学会参加報告

開催時期	国際学会	開催地	発表演題	本学参加発表者
8/10(日)~14(木)	国際光工学会 (SPIE) 主催 Optics+Photonics 2008	米国 サンディエゴ	高次相関が有界となる確率的な展開係数をもつ直交展開で表される信号の最適近似 FIRフィルタバンクにおける近似誤差の各種の評価尺度の最悪値の同時最小化	木田 雄一
11/15(土)~21(金)	第38回米国神経科学会議	米国 ワシントンDC	ニコランジルのラット心臓におけるエクト-5'-ヌクレオチダーゼ活性化を介するAMP存在下におけるアデノシンの増加	小畑 俊男
11/20(木)~23(日)	有機合成反応に関する第9回国際会議 (ISOR)	台湾・嘉義市	C2-対称性を有する配位子に対する立体選択的配位による新しいキラリティの発現	廣井 邦雄

附属病院

臨床研修協力施設での研修

平成18年度から義務化された歯科医師臨床研修も今年度で3年目を迎えることとなった。この制度の目的である高頻度治療の臨床研修は、一般開業歯科での研修を主眼として設定されていた。当初、本学での協力型研修施設数の不足もあり、奥羽大学歯学部附属病院単独で1年間の研修を行うプログラムと4ヶ月間を開業歯科で研修するプログラムでスタートした。

施設数の充実に伴い、一般歯科での研修機会を望む声に応えるべく、今年から単独型臨床研修プログラムを選択した21名を対象として、従来の研修協力施設に加えて、新たに郡

山市内の4開業歯科医院を1週間の見学・研修する制度がスタートした。

今年度は、9月1日(月)から11月3日(月)まで派遣・見学研修が行われた。研修歯科医師は声を揃えて、「診療のスピード」や「業務分担の効率性」に驚嘆していた。研修実施が自分達の就職先の決定時期と重なり、不安と安心の入り混じった一週間となったようであった。

研修管理委員会や指導歯科医の親心が通じればと思いつつ、筆を置く。

(高橋 和裕)

附属病院改修

一口腔外科診療室と病棟がリニューアルオープン

歯学部附属病院では昨年度から診療室等の全面改修を行っている。これまでに、総合歯科第1、第2診療室と矯正・小児歯科診療室および薬局、総合受付が新装された。今年度も引き続き改修工事が行われ、10月1日(水)に口腔外科診療室と病棟がリニューアルされた。

新装なった口腔外科診療室は、廊下側の壁一面にグラデーションフィルムを貼付したガラスが組み込まれて明るくなった。歯科用ユニットは口腔外科診療室に18台、外来全身麻酔下治療室に2台の合計20台を設置した。診療室のセンターにサプライと受付を置き、受付前には開放的な待合室を設けた。同時にリニューアルした病棟は、ベッド数をこれまでの43床から22床に削減し、4人部屋を4室、個室を4室、ICUを2床とした。4人部屋はベッド間をパーテーションで区切り、ベッドごと

に洗面化粧台とテレビを設置して、個室感覚を持たせた。病棟の入り口付近に移設したナースステーションは広く明るく機能的になった。医局は1室2区画とし、口腔外科と歯科麻酔科の共用とした。室内には手術室のモニターを設置して臨床教育の場としても活用できるように考慮した。

今回の改修では、同時に診療機器の更新も行われ、最新の設備で安心な歯科医療を提供できるとともに、充実した臨床教育を実施するにふさわしい環境が整った。附属病院の全面改修は残すところ旧矯正歯科診療室となり、本年の12月上旬には総合歯科第3診療室として生まれ変わるようになっていく。

皆様には、医療連携の一端として、附属病院の充実した設備と、明るく清潔な診療施設を十分に活用されるようお願いしている。

(清野 和夫)



平成20年度歯科医師臨床研修 指導歯科医講習会

平成20年度の臨床研修指導歯科医講習会を9月6日(土)、7日(日)に清稜山倶楽部と無垢苑において開催した。この講習会は臨床研修における指導歯科医を養成することを目的としており、参加者は北海道・秋田・福島・栃木・埼玉・東京からの病院並びに診療所の先生方と本学附属病院の教員を併せて23名で、3グループに分けて実施した。

チーフタスクフォースとしては前回同様に東京歯科大学社会歯科学研究室講師の平田創一朗先生（元厚生労働省医政局の歯科医師臨床研修専門官）に務めていただき、また、特別講師として、厚生労働省関東信越厚生局健康福祉部医事課の臨床研修審査官である神田拓先生に「新しい歯科医師臨床研修について」並びに「医療安全管理と院内感染予防」と題してご講演をいただいた。

今回の講習会は二日間で16時間と、参加者にとってはかなりハードな内容であったと思うが、参加された先生方からは高い評価をいただくことができた。多くの先生方に指導歯科医の資格を取得していただき、本学の協力型研修施設としてご協力いただくことを期待している。

(鎌田 政善)



歯科衛生士科2年生臨床実習開始

姉妹校の東北歯科専門学校歯科衛生士科では、平成19年度より3年間の教育カリキュラムを実施している。3年制に移行した最初の学年31名は、1年半にわたり本学歯学部教員

の教育連携を得ながら基礎系および臨床系科目の教養および手技を学んできた。これらの成果を実践および確認できる臨床実習が10月6日(月)より本学附属病院および市内12カ所の協力施設で開始された。

実習内容は、歯石除去、う蝕予防処置、保健指導、診療補助、患者への接遇、器械器具の消毒・管理、歯科診療事務などがあり、本実習を通じて専門職としての能力を充実させ、一般的な技術を習得する。

10月3日(金)には清野和夫病院長ならびに附属病院関係者出席のもと、戴帽式が挙行された。実習生代表による今後の抱負を交えた熱意ある宣誓が行われ、医療現場に入る際の真摯な姿勢がうかがえた。実習期間は来年9月30日(水)までの1年間を予定しており、全員が学識を高めるための修練に日々取り組んでいる。

(福井 和徳)

図書館

薬学図書館の地区総会

平成20年度日本薬学図書館協議会北海道・東北地区協議会総会は11月14日(金)、本学において開催された。参加者は北海道医療大学、北海道薬科大学、東北薬科大学、いわき明星大学並びに本学の図書館関係者8名。地区協議会としての取り組みや事業計画、各館の動向報告、図書館の社会貢献などについて話し合われた。

全国組織としての日本薬学図書館協議会（薬図協）は、伊藤四十二東京大学薬学部教授（当時）の主導により1955年に設立され、現在の正会員は119機関、専門雑誌『薬学図書館』を年4回発行している。

(安藤 勝)

余 滴

“自己満足”について

皆様は“自己満足”という言葉にどのような印象をお持ちだろうか？私は以前あまりpositiveな印象は持てずにいた。しかし、重症入院患者に相對するようになった20代後半からはそれが変化した。

日直勤務へ向かう早朝の車内でそれは突然生じた。ラジオから流れてきた「自分が働くということは、端々（はたはた）の者が楽（らく）になること」という言葉が耳に入ると同時に、高校時代の担任がよく口にしていた「人にはそれぞれの“器”がある」という言葉を思い出した時である。「あっ、そうだ。」と心の中で呟いた。自分の働きを器に注ぎ込む満足という名の水に例えてみた。器が水（満足）一杯になる程に働けば“自己満足”はもちろん得られるが、未だ溢れ出しているわけではないので端々の人（患者や医療スタッフ：以下、彼ら）には水は行き届いていない。したがって彼らは私の働きによってまだ楽になった（満足した）とは実感していない（当然のことと思っている）。“自己満足”の域を超え水が溢れる程自分が働いて初めて本当の意味で働いたことになるのだ、と思った。水が器一杯のところまで仕事を切り上げて自分自身では仕事を十分やったという充足感はあるだろう。しかし、それでは彼らの信頼は得られない。十二分に仕事をやり、水を溢れさせてこそ彼らは私が働いたことを実感するのである。投資のないところにリターンはないのである。

端々の者が楽になるために働くわけであるが、その過程に自分が持っている器を水一杯にして“自己満足”に浸る一瞬は存在しており、それは決して悪ではない。この車内での一件以来、私は仕事上の第一目標を“自己満足”を得ることとした。

「自分が」「自分が」がまかり通る昨今、もうしばらく青臭く生きてみようと思う。

(倉本 敬二)

公開講座特集

4回に分けて開催された第17回奥羽大学公開講座の要旨を掲載する。

(7月26日(土)実施)

虫歯の皇太子 ―光源氏の栄華を支えたもの―
歯学部教授 加藤 幸一

『源氏物語』賢木の巻に、6歳の皇太子が虫歯をのぞかせて微笑む様子を描いた場面がある。後の冷泉帝である。冷泉帝は、表向き光源氏の父桐壺帝とその妃藤壺の子となっているが、実は源氏と藤壺の子である。源氏と同じ表現が用いられ、源氏に生き写しの美しい皇子に成長していることも強調されている。そんな様子を見た藤壺は秘密の露頭を恐れる。

皇太子は11歳で即位、源氏は内大臣として帝に仕える。帝14歳の年、藤壺が世を去る。その直後、帝は古くから藤壺に仕えてきた僧によって出生の秘密を告げられ、実の父を召し使っている非礼を指摘される。帝は源氏への譲位をほのめかすが、源氏は固辞する。しかし、父への礼を尽くすために源氏に准太上天皇（天皇を退位した太上天皇に准ずる）という高い地位を与え、源氏の栄華は極まる。すなわち、出生の秘密を知った不義の子冷泉帝が光源氏の栄華を支えているのである。

「源氏物語千年紀」に因み、虫歯の描写に注目し光源氏の世界を覗いてみた。

ハイテク英語教材で
ネイティブの発音に近づこう!

薬学部講師 伊藤 頼位

本講座のテーマは、奥羽大学の先進的なCALLシステム（コンピュータを利用した英語学習システム）による英語の発音訓練を体験し、ネイティブスピーカーに近い発音のコツを習得することである。受講者にCALLの操作方法を解説した後、英語の発音には「強

弱」の規則的なリズムがあることを説明して、実際に英語のネイティブスピーカーの発音を聞き、それを真似てみる練習を行った。さらに、CALLならではの演習方法として、自分の発音を録音してネイティブスピーカーの発音と聞き比べる活動を行った。反復訓練が可能で、受講者が自分のペースに合った学習進度を設定できること、自分の発音を客観的に聞き、その良い点・悪い点をチェックできることをCALL利用の利点として紹介した。CALLの体験学習を通して、受講者には楽しみながら英語の発音の特徴を理解していただけたと思う。

(8月24日(日)実施)

フランス・ナビ
—君はフランスという国を知っていますか—
歯学部教授 藤井 史郎

フランスは一大農業国である。主食である小麦の自給率190%がそれを証明している。その一方フランスは、航空、武器、自動車、原子力といった各産業の工業国でもある。ことに電力は、国内需要の80%を原子力発電によりまかなっている。欠点は家電製品に弱いことだ。例えば、フランス製の加湿器を買ってみよう。保証書は一年間になっているが、購入からちょうど一年後に壊れるそうである。三倍お金を出しても日本製を買った方が得である。

フランスといえばパリ。凱旋門からコンコルド広場に向けて一直線にのびる片側四車線のシャンゼリゼ大通りができたのは、1850年代にナポレオン三世が発案し、実行したパリ大改造による。それ以前のパリは、小さな建物が密集し、ごみごみした、細い路地が入り組み、窓から投げ捨てられる人糞、馬車の馬糞にまみれた汚い街であった。ドレスの裾を汚物で汚さないための踵の高い靴、これがハイヒールの起源であるという。

私は誰?
—知れば知るほど面白い免疫の仕組み—
薬学部准教授 山下 俊之

病原体や他人の臓器などの異物が体に侵入すると、それを除去するのが私たちの体に備わっている「免疫系」の役割である。本講座では、免疫系が「自己」と無数の「非自己」を見分ける2つの「戦略」について紹介した。

まず免疫系は、私たちの体のほぼすべての細胞上に存在するHLAと呼ばれるタンパク質を自己の「標識」として認識する。「自己」をきちんと認識できれば、それ以外のあらゆるものは「非自己」であると認識できるわけである。次に免疫系は、私たちには含まれずウイルスや細菌などの病原体にのみ存在する様々な成分を認識するレセプターを用意している。あらかじめ「非自己」を予測することによって、効率よくその侵入に備えているのである。

このように免疫系は、「敵を知り己を知らば、百戦して危うからず」の格言のように、敵(病原体特有の成分)を知り、己(自己のHLA)を知ることによって、堅固な生体防御システムを作り上げている。

(9月6日(土)実施)

痒いところに手が届くカユミの話
薬学部教授 野島 浩史

かゆみは外気に曝される皮膚および一部の粘膜にのみ発生する。かゆいところを引っ掻くと、皮膚病変を増悪させてさらにかゆみを助長することになるので、このかゆみと搔破の悪循環を断つことは臨床上きわめて重要である。皮膚におけるかゆみの発生には、真皮のマスト細胞と表皮のケラチノサイトが重要な役割を担い、それぞれアレルギー性および乾皮症のかゆみの主役として働く。特に乾皮症では、皮膚の乾燥に伴って増加するケラチノサイトが神経成長因子を分泌するので、健康皮膚では深部に留まっている知覚神経が表

層にまで入り込んでくるようになる。これは敏感肌と呼ばれる状態であり、わずかな刺激でも興奮する環境下にあることになる。アトピー性皮膚炎は、アレルギー反応であるが、皮膚は乾燥状態にあることが判明している。このかゆみの治療には第2世代の抗ヒスタミン薬が使用されているが、より効果的な治療薬の開発が望まれているのが現状である。

もうギョウザは大丈夫?
薬学部教授 押尾 茂

本年1月末に厚労省発表およびそれに続くマスコミ報道により明らかになった、いわゆる“中国製ギョウザ問題”はわが国における食品の安全性への信頼性を揺るがす大問題となった。しかし、新聞報道を振り返ってみると、それらの8割以上は発表後1ヶ月以内になされたものであり、最近ではほとんど話題にならなくなっている。そこに、8月上旬から同じ商品について、中国国内での中毒例が見つかったとの報道があったが、これも北京オリンピックの影に隠れてしまい、食品の安全性問題というよりは、「危機管理」の問題にすり替わっているように見える。

今回の講演では、いわゆる“中国製ギョウザ問題”は、どこが問題で、その原因はどこまで解っているのか、また、今後、国産品を含めて、食品を選ぶ時、私たちはどのように安全・安心についての情報を入手し、それらをもとにしてどういう判断をすればよいのかということについて紹介した。

(10月11日(土)実施)

より良いコミュニケーションづくり
—自分自身をアニメキャラでCHECK—
歯学部准教授 車田 文雄

コミュニケーションとは、一般的にはある人から他の人へサインまたはシンボルを介して特定の情報が伝えられたり、互いの意思交

換が行われる過程をいう。

また、Communicateの原義「他人と共有する」から派生して、「他人との意思交換により情報を共有すること」すなわち「意思の疎通を図ること」を意味している。意思の疎通を図るためには、情報の送り手とその受け手が相互に理解することが必要である。したがって、①情報を伝えること、②情報を受け取ること、③相互に理解すること、の3つの要件のいずれも欠かすことはできない。ゆえに「相互に理解しながらの情報の伝受」をよりスムーズに行うため、今回アサーショントレーニングを応用しながら、自分の行動にどのような傾向(長寿アニメ番組である「ドラえもん」における3タイプ…のび太・ジャイアン・しずか)があるのかを気付いていただきたいと考える。

パフォーマンス学 —「笑声」で好感度アップ—
歯学部非常勤講師 吉田 いくよ

「言葉の意味」や「その人の印象」は声で伝える。講座では、「笑声(えごえ)」による好感度アップについて行った。声は情報伝達のメイン手段であり、人間評価に繋がる大切な財産である。「笑声」の重要性を理解し、日々の生活に活かすことが好感度アップに繋がる。

まず、声は声帯の振動で音が生まれるなど発声の仕組みを図解した。声は変化で伝えるもので「大きさ」「スピード」「抑揚」「間」などがかわってくる。また、「開口」口の開き方で音を決定するものである。実際に声を出し、体験する様々なトレーニングを行った。

「パフォーマンス学」は、「伝えたい自分」を表現し、また相手の発信している「伝えたい自分」を読み取ることにより、良い人間関係を築くことを目的にした学問である。明るさ暗さも意識を持った声の遣い方による影響が大きい。特にその意味を決定するイントネーションの違いによって印象が大きく変わる。声のサンプルを聴くことで理解していただいた。

同窓会

歯学部

同窓の先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は昨年7月より埼玉県支部長を務めております4期生の
大谷正人です。

昨年より、前支部長の松尾秀喜先生から私が引き継ぐこととなり、新しい執行部となりました。理事の先生方とともに同窓会のために頑張っております。

支部の現況は、会員数77名です。埼玉県の歯科医師会の会員数は2,364名で全体の3.26%とまだまだ小さな同窓会ですが、多くの先生方が県歯科医師会や郡市会（県内19郡市）で役員として活躍中です。

当会の活動状況は、毎年7月に定時総会と学術講演会を開催しております。本年度は、歯内療法学の佐々木重夫准教授をお招きして「奥羽大学の近況と今日の歯内療法」というご講演をいただきました。

その後の懇親会では、すぐにも診療室で使える歯内療法のテクニックや懐かしい母校の情報をお聞かせいただき、佐々木先生とともに会員が楽しく有意義な時を過ごすことができました。

1月には、新年会を開催し多くの先生方に参加していただき、新年の展望や、日頃の疑問や質問等を相談できる場として親睦を深めております。

また、ゴルフコンペも開催しており、昨年は岩手医科大学と合同コンペを行い他大学との交流にも努めております。昨年より埼玉県歯科医師会や交友会からの情報も入るようになり、今まで連絡の取れなかった同窓の先生方にも少しづつですが、連絡が取れるようになってきました。

歯科業界は、2011年のレセプトの電子化をはじめ、非常に厳しく苦しい時代を迎えています。このような時こそ同窓として助け合える同窓会を目標に努力しております。地元埼玉県に戻られる先生、勤務される先生、また埼玉県で開業を予定し開業された先生は、ご連絡をお願いします。

(埼玉県支部長 大谷 正人)

同窓生のひろば



宇治 信博
(歯学部22期生)

同窓生の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。卒業後、本学口腔外科学講座に臨床研修を含め2年間、猪苗代の歯科医院に1年間勤務し歯科診療の基礎を学ばせていただきました。妻も大学職員だったため、多くの方々にお世話になりました。毎回学報で皆様のご活躍の様子を拝見させていただいております。

さて、私は熊本県阿蘇市で今年1月より代替わりし開業しております。2児を授かり、周りを山に囲まれた大自然の中、田舎暮らしを満喫しております。22期卒という若輩者の私ですが、今年度から熊本県支部長という大役を仰せ付かり、微力ながら同窓会のために貢献できればと思っております。熊本県の会員は、まだまだ少ないのが現状です。しかし、九州連合支部として、1期生の川村先生のもと九州は一つにまとまり、楽しい同窓会活動をさせていただいております。参加しなければ、知り合えることができなかった先輩、後輩と出会えたことは良き財産になっています。

日々の診療をしているなかで、歯科医師は「人間性豊かじゃないといけない。」と最近特に思っています。昨今、大麻の問題や詐欺事件など人間の弱さを反映した事件が相次いでいますが、それらはすべて周りの環境が人間性を変えた結果だと思います。私の今までの環境は、よき恩師、先輩、友人、後輩に恵まれ、まだまだ未熟で、人間性豊かともていかなないながらも、人間性を高めることができたことをこの場をお借りし感謝いたします。日頃お会いすることはできないと思いますが、どこかで久しぶりにお会いできたときに、「よう！宇治元気だったか？」とお声をかけていただければ幸いです。最後に母校の益々の発展と皆様のご健康ご多幸を心から祈念いたします。

学校法人晴川学舎 平成19年度決算報告

事業の概要

〈教育研究について〉

・歯学部

1. 「歯科医療人間学」の態度教育、施設見学、コミュニケーション学、医学英語については、第1学年と第2学年は通年で、第3学年は前期、第4学年は後期に実施した。
2. PBL(問題立脚解決型学習)チュートリアル教育を第5学年の7月に3回実施した。
3. FD活動として講演3回、歯科医学教育者ワークショップ3回、CBTワークショップ4回、OSCEワークショップ3回実施して教員資質の向上を図った。
4. 情報公開については、奥羽大学の情報をホームページに掲載、地域社会への提供を図るとともに自己点検・自己評価と研究成果を教育へフィードバックする目的で現在、教育データベースシステムの能率化に対する整備を推進している。

・附属病院

1. 歯科医師臨床研修指導体制の充実のため臨床研修の指導歯科医として臨床講師の制度を設け、さらに研修施設として総合歯科診療室と矯正・小児歯科診療室の改修をし研修環境の整備を行った。

・大学院研究科

1. 大学院歯学研究科の教員組織で2名の大学院専任教員(教授)を配置した。
2. 大学院セミナーとして国内の研究者4名による、特別セミナーを開催した。
3. ティーチングアシスタント制度を活用し6名の大学院生が5教科の歯学部学生の実習で、延べ213時間の教育支援を行った。

・薬学部

1. 平成20年度から実施する実務実習の受け入れ先を決定した。
2. CBTトライアルは、3年生194名で実施し、OSCEトライアルを学外評価者(大学関係、病院・保険薬局薬剤師など)67名と模擬患者19名などの協力を得て実施した。
3. 就職活動・学生活動支援等として、病院・製薬会社・調剤薬局・ドラッグストア等100社の参加を得て3年生200名がブース形式で採用担当者と対話する企画を実施した。

〈管理運営について〉

1. 財務情報をホームページに掲載し社会一般の方々にも公開した。
2. 大学基準協会へ加盟判定審査を受けるため報告書を提出した結果、平成20年3月21日付けで、同協会から適合していると認定する通知を受け正式に正会員として認定された。
3. 施設・設備の整備

歯学部と薬学部の学生にゆとりある環境を整えるため平成18年度に着手した第3講義棟が平成19年5月に竣工した。

また、改修工事として、病院棟の2階薬局と病院事務室及び小児歯科・矯正歯科、3・4階総合診療室のユニット取替更新に伴う改修工事、さらに講堂棟防排煙設備改修工事、講堂棟南側道路改修工事を施工し充実を図った。

設備については、第3講義棟に設備した講義用デスクや病院棟、小児歯科、矯正歯科、3階・4階総合診療室に設備したユニットを含め、2,229点の機器備品の整備をした。

決算の概要

① 消費収支計算書

消費収支計算書は、当該年度の「帰属収入」から「基本金組入額」を控除した「消費収入」と「消費支出」を対比させ、その均衡の状態および内容、経営状況を明らかにするものであります。消費収入の部は、寄付金・雑収入が予算額より4,887万円増加するが、補助金は、臨床研修医受入人数等の減少から対予算で8,142万円減となり、学生生徒等納付金は、薬学部入学者の減少から対予算で4,600万円減となりました。その結果、帰属収入合計は、予算比10,702万円減の499,812万円になりました。

また、消費支出の部では、予算に対して人件費13,390万円減、教育研究費10,615万円の減、管理経費も節減され消費支出の部合計で、40,910万円減の479,535万円になりました。以上の結果、当該年度は18,276万円の支出超過になりました。

帰属収支差額(①-②)は、対予算比30,208万円増の20,276万円になりました。

② 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応する収支(資金の動き)の内容を明らかにするための表です。消費収支計算書と重複するものについては説明を省きます。前受金収入は、主に平成20年度の新入生の納付金であり、薬学部の入学生の減少から対予算で19,012万円減になりました。その他の収入と資金収入調整勘定は、未収入金や前受金等の前年度と今年度の動きを表したものです。

施設関係支出は、第3講義棟と病院棟改修工事及び校内道路工事などで35,157万円の支出になり、設備関係支出は、主に病院棟ユニット交換と図書2,662冊を整備したもので76,388万円の支出になりました。

資産運用支出は、主に消費支出引当特定資産繰入支出であり、その他の支出と資金支出調整勘定は、未払金や前払金等の前年度と今年度の動きを表したものです。

以上の結果、次年度繰越支払資金は、対予算で207,321万円増の480,746万円となりました。

消費収支計算書 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで (単位:千円)
Table with columns: 科目, 予算, 決算, 差異, 構成比率. Includes sections for 消費収入の部 and 消費支出の部.

資金収支計算書 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで (単位:千円)
Table with columns: 科目, 予算, 決算, 差異, 執行比率. Includes sections for 収入の部 and 支出の部.

③ 貸借対照表

貸借対照表 平成20年3月31日現在

貸借対照表は、年度末での財政状態を明らかにするための表です。

固定資産は34,189百万円となり、その他の固定資産では、退職給与引当特定預金へ繰入れを行ったため対前年11百万円増となりました。

流動資産は5,014百万円となり、流動資産のうち現金預金は4,807百万円です。

固定資産と流動資産の合計である総資産は、39,203百万円です。

固定負債は1,277百万円、流動負債は1,572百万円になり、総負債は2,849百万円です。借入金はありません。

貸借対照表 (単位:百万円)
Table with columns: 資産の部, 科目, 本年度末, 前年度末, 増減, 構成比率. Includes sections for 資産の部 and 負債の部.

負債の部
Table with columns: 科目, 本年度末, 前年度末, 増減, 構成比率.

人事

〈採用〉

岡部 理恵 看護師 看護部 9月1日付

〈退職〉

大須賀麻衣子 歯科衛生士 看護部 8月31日付

佐野しおり 助手 歯学部 9月30日付

吉野 隆司 助手 歯学部 10月31日付

慶弔

〈結婚〉

おめでとうございます。

○國分 明子 附属病院 歯科衛生士 11月1日

(旧姓 和田)

〈訃報〉

謹んでお悔やみ申し上げます。

●歯学部 太田 麻生 祖父 新井 武 殿 (80歳) 8月5日

●薬学部 高橋 成周 祖父 高橋 重男 殿 (93歳) 8月6日

●歯学部 伊東 博司 実父 伊東 康男 殿 (82歳) 8月18日

●看護部 高橋 知子 祖父 八鍬平三郎 殿 (90歳) 9月8日

●歯学部2年 松尾 敏行 実父 松尾 光行 殿 (59歳) 9月30日

●薬学部 熊本 隆之 祖母 岩本 カツ 殿 (102歳) 10月1日

●総務部 鈴木 一之 祖母 高野 チイ 殿 (94歳) 10月6日

●薬学部 志村 紀子 義父 志村 建吾 殿 (84歳) 10月18日

郡山自転車ロマン紀行 (連載)

<第8回> なるほど地名考

地名の成り立ちは、その土地の歴史、自然、伝説、風習などが反映されて、いつしか市民権を得てくるようなところがある。田穀が豊かになることを祈願して「富田町」、荒地を喜びの土地に変えたい「喜久田町」、野原が広がってただの野から「多田野」といった具合だ。郡山の地図をじっくり眺めてみると、面白いことに気がつく。その一つに歴史に関係する地名が多いことだ。

郡山の伝説上の三大美女と言え、静御前、菘姫、采女を言うらしいが、そのうちの静御前に関する地名として、静町、針生、小六塚、小六峠、粧坂、美女池、御前、小仲針生…などがある。前九年の役で郡山に宿営した平安後期の武将八幡太郎義家にまつわる地名には石釜(次ページ写真参照)、休石、三森峠、高旗山、額取山、対面原、白幡、押出、勝利ヶ岡、駒隠など山や原野の地名が多く、伝説も豊富だ。坂上田村麻呂では田村町は言うに及ばず、手代木、姉屋などがある。

明治の安積開拓では、開成、桑野、菜根、十五戸、久留米などがある。菜根は明治天皇が安積開拓地視察で開成館に宿泊されたとき、梅津孫助という入植者が同行された岩倉具視右大臣に巨大な大根を献上したことだからと言うから、なにが地名になるか分からない。梅津の屋敷までもが菜根屋敷という地名で残っている。

熱海町は、頼朝の時代、安積郡の領主となった伊東氏(工藤祐経)が故郷の伊豆(静岡県)を偲んで名付けたという。上伊豆島、下伊豆島、三島、河内など静岡県の伊豆地方に関する地名がいくつかある。ちなみに工藤祐経はご存知曾我兄弟に仇討ちされている。

他の県ではあまり見かけないようだが、田に蒔く種子を量で示した地名が至るところにある。「・・蒔」というのがそれだ。たとえ

ば、二斗蒔、五斗蒔、五升蒔、八斗蒔、三斗蒔、一升内、六斗蒔田、五斗蒔田、四斗蒔…限りがないのでこの辺まで。

人名をそのまま地名にしたものもある。多分、農地所有者か土地開発者の名前だろう。六兵衛田、八郎治、平九郎内、又右エ門東、長右エ門林、東重郎作、外左エ門段、大佐エ門林、伝佐エ門原、弥五郎、孫右エ門平、藤平五郎内、衛門次郎原、太郎殿前、源右エ門沢、長四郎段、…例示にいとまがない。江戸時代の武家屋敷か長屋に入り込んだ感じだ。

正直という地名が田村町にある。阿武隈川と谷田川の間位置する丘陵地だ。あまりにも珍しいので調べてみると、伝説がある。昔、ジイとバアが団子作りに粉を入れたり、水を入れたり、なかなか加減がうまくいかなかったに、大鍋一杯作ってしまったので、近所の人々にふるまったという。この辺りを自転車でぶらぶら走っていたとき、「正直家」と刻印されてある墓を見たことがある。さぞかし正直者の一族がいるのだろう。会って話してみたい気がする。

ところで、ぎょっとした地名に「女殺」というのがある。『郡山の地名』という本に地名のみが記されている。説明はないが富久山町の項目にある。奥羽大学の近くだ。これはただ事ではない。興味しんしん。まず地図に当たってみるが。そうだろう。今時こう



昭和初期まで「女殺」といわれた善方池周辺。中央の建物は奥羽大学。

した猟奇的な地名があるはずはない。いろいろ調べてみると、『郡山の伝説』に「久保田に、女殺しという地名があった。昭和初期の耕地整理で大原と字名が変わった。その昔、この場所で御殿に勤めていた側女が殺されたという。それ以後、土地の人々は女殺しと呼ぶようになったと伝えられる。伝承地富久山町久保田」とある。『ふくやまの伝説と昔ばなし』という小冊子にも同様の記事がある。

大原といえば善宝池(前ページ写真参照)の公園一帯を言うが、今でも松林のある閑雅なところ。夜の一人歩きは…なんて想像をたくましくしてしまうが、これは昔の話だ。

ついでに奥羽大学周辺に眼を転じると、行徳小学校の高台一帯を三御堂という。光看堂とも呼ばれていたようだ。『久保田郷土史』という手書き原稿をそのまま複製した極めて珍しい本によると、「昔、久保田村の清太郎と藤四郎が釈迦、大日如来、阿弥陀、勢至、観音の五仏を祀ったお堂があった。このお堂の近くで村人が休んでいたところ、ここを掘れとお告げがあり、小さな蛇の案内で穴を覗くと、蛇の頭が三つ出てきた。穴を掘ると五仏の古碑が出てきた。年号は貞和5年6月(1349年)と刻印されていた」とある。

この観音堂は霊験あらたかとして、非常に賑わったらしいが、16世紀後半に伊達政宗が安積の地に乱入した郡山合戦で焼失、枅形館の領主乙高内膳十郎兵衛等は亡ぼされたという。枅形、乙高という地名が今でもある。三御堂の高台の一隅に板碑二基が祀られている



熱海町の釜石。八幡太郎義家がこの石の上に釜を敷いて戦勝祈願したという。

が、多分お堂があったところだろう。

あまり知られていないようだが、この地に「三御堂温泉」があり、神経疾患、心臓病、婦人病などに効能があり、大いに繁昌したという。浴場開業は昭和2年3月、廃業は昭和22年2月。この地で立ち話をしていた年輩の女性二人に聞いてみると、「私は30年もここに住んでいるが、確かに温泉はあったようだよ。私は入ったことはないが」とのこと。

ところで、奥羽大学の住所は「三角堂」になっているが、三角堂というお堂については私が調べた限りでの文献には出てこない。ただ「三御堂」の発音が「みすみどう」に転化したのではないかという記載はあったが、多分そうだろうとは想像の範囲である。

地名には往時の人々の生き様や願望などが時として刷りこまれてあり、歴史の彼方からそれらの匂いが漂ってくるような、そんなロマンを感じるのである。

- * 文献の案内 『相生集』(岩磐史料叢書 中巻) 岩磐史料刊行会 大6
- 『ふくやまの伝説と昔ばなし』 富久山郷土史研究会 昭和53
- 『郡山の伝説』 郡山市教育委員会 昭和61
- 『ふくやまの旧蹟を辿りて』 富久山郷土史研究会 平2
- 『富田ふるさと町史』 富田町史談会 平成16
- 『口承文芸刊行物 郡山の地名』 郡山市教育委員会 平成17
- 『源頼朝に郡山を貰った男』 橋本捨五郎 平成19
- 『久保田郷土史』 富久山郷土史研究会 出版年不明(稿本)

(図書館長 安藤 勝)

奥羽大学報120号(通算№245)平成20年11月14日発行
発行 奥羽大学
学報編集委員会
委員長 清水秋雄

☎963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
電話 024(932)8931代 FAX 024(933)7372
ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
メールアドレス info@ohu-u.ac.jp